

# さざんか

第55号、2006年1月

あけましておめでとうございます。年末年始いかがお過ごしだったでしょうか。気象庁の当初の予想はずれて暖冬どころか、12月は厳しい寒波に見舞われました。3メートルも4メートルも雪が積もる北国の苦労は想像しただけで気が遠くなりますが、しかし、現実の出来事です。老人家庭の屋根の雪下ろし。古い話ですが、かつての総理大臣田中角栄が雪国の環境整備に力を注ぎ、地元の人間からは神様のように慕われていたのもこういう厳しい環境があればこそだったのでしょう。命を守るという言葉が大げさではなかったというのが良く分かりました。

伊佐地方でも久しぶりに寒い冬を迎えています。大量の雪や道路の凍結は困りますが、うっすらとしたあたり一面の雪景色や冷たくて澄み切った空気は冬ならではの風情がありなかなかいいものですね。

さて、世の中に目を向けると、厳しいのは天候だけでなく、医療環境もまた厳しい冬の時代を迎えそうです。冬来たりなば春遠からじ。自然界ではいつか春が来ますが、今回の医療環境の変化（患者負担増、診療報酬引き下げなど）は当分、患者さんおよび医療者にとっては冬の時代が続き春は来そうにありません。少子高齢化社会をむかえ、年金や医療費問題などで、お年寄りがあたかも諸悪の根源のような言い方も一部でされているのが気になります。一生懸命働いてきたお年寄りを邪魔者扱いする社会はどこか胡散臭くて信用できない気がします。さらに経済的問題だけでなく、全国あちこちの地方の国公立病院ではさらに医師不足と云う深刻な問題を抱えている現状です。

厳しい環境の中、あくまでも地域住民の方の健康を守り、病気を治し、病気と闘うお手伝いをするという基本姿勢だけは崩さずに、今年もやっていきたいと思えます。どうぞ今年もよろしく願いいたします。

---

---

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

---

---

## みんな元気でやろう

宮園 辰夫

今回はお年寄りや介護をしていらっしゃる方、ボランティアをされている方に、少しでも、私の気持ちが伝わり、これからの話が参考になれば幸いです。

くれぐれも階段なんかで転んだりしないように、転んで骨折でもしたら、年を取っているとなかなか治りが悪い。一回転んだら、二度と転ばないようにね。二回転ばないことは、一回転んだ時に起きなければいいのですけどね、ハハハ・・・。

病人の癖に大きなことは言へませんが、自分の健康は自分で管理ませう。自分に余力があったら、ハンディをもっている人達のために手を貸してあげませう。ハンディを持っている方が、自分でしようとするときは、自分でやらせてあげてください。どうしても飛び越せない障害を持った人には手を貸してあげてください。それが介護であり、ボランティアであり、福祉であると思います。お年寄りには歴史があり、人生の大先輩です。ギニアではお年寄りが一人亡くなると、図書館が一軒焼けたのと同じくらい損をされると言われているそうです。

お年寄りは知恵の塊なんだから大切にするとお年寄りの方々を元気な人が面倒をみるのは、当たり前とされているそうです。ボランティアをやることは、ほんとうに人のために一生懸命だ。ボランティアをやるのもいいけど、まずは自分には優しくしてください。自分が痴人じゃ人様を幸せにできない。自分の健康は自分で管理し、そして余力があれば、介護やボランティアにも頑張ってください。偉そうな事を書きました。御免なさい。

---

---

### 県立北薩病院の基本方針

---

---

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します（医療の姿勢）
- 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します（診療の特徴）
- 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します（地域の支援）
- 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します（医療人としての姿勢）

## 河童（第3話）

### 河童の悲鳴

貴島高則

大正の昔、集落の長老で松元次右エ門と言う釣りの名人が居ました。魚が大へん釣れるというので、父がある晩いっしょに、川内川の「万ぜ淵」と云うところに行った時の話です。何時もの場所で釣りをしたしたが、その晩はどうした事かさっぱり魚が釣れませんでした。しばらく釣っていると、二人の釣り糸がからみ闇夜で明かりはないし、どうすることも出来ません。

二人は早速焚き火をする事にしました。竹の枯れ枝を集め、焚き火をしましたが、良く火が燃えず困りました。たまたまそこに樁の枯れ木があり、焚き火の中に投げ入れました。樁の枯葉が「パチパチ」と燃えだしました。その音に河童が驚いたのか、次右エ門さんの鉈が河童に触れたのか、急に足元から河童が悲鳴を上げ、「ヒーヒー」と鳴き出し、前後左右、足の踏み場もないほど鳴き叫びました。闇で何も見えず、流石の名人も困りはて恐ろしくなり帰ることにしました。

そこで次右エ門さんは鉈を振り回し、地面を叩いて足を運び、父は次右エ門さんにすがるようにして、ようやく竹藪をくぐりぬけ、やっとのことで県道まで出て、ようやく家に帰ったそうです。

その晩は山の方の川まで河童が鳴いたそうです。河童は焚き火をすると集まると云われています。次右エ門さんはそれから毎日、朝夕、川に魚取りに行き死ぬまで川に行きましたが、二度と河童に遭う事はありませんでした。河童は火を炊くと集まると云われています。炊火をしたので集まったのかも知れません。私の子供の頃は、よく親か大人から川には河童が居るから行くな、川に出る時は咳払いをしてから出ろ、河童は鉄分を嫌うから鉄で作った鉈か鎌を持って行けと教わったものです。春の彼岸がくると川に下ると言われ、ヒーヒーと鳴くのは小鳥で、河童はヒーホーと鳴くと昔から言い伝えがあります。

大正9年山野線が開通してから鳴いて下る声を聞かなくなったとも言われています。

千の蕾 奄美風砂

今日果てる冬蝶曙光に似て

冬林鼓膜にふるえる蝶の声

野火の音 山本フサ

冬の雨伊佐の盆地にふりしづみひとりの部屋は霧の匂ひす

勤めとはきびしきものか百姓の眠りの時間へ子は帰りくる

冬木立 宮園 辰夫

今生れし子牛よろめきて乳さがし居り 日の差す納屋に

切干の大根風匂ひたち一日半ばの日暮れのはやし

さつま狂句 キンカン

こじっくい 小短軀くせ たの者高け所れ昇ろしつ

せ た け 背高まくが負い日まが来いか孫どんよ

## 人に好かれる年寄りにならう

宮園辰夫

或るタクシー会社の運転手さんが、雨の降る日、お年寄りを乗せて目的地まで行くことでした。所が、突然お年寄りが、今の若い者を見て、何とも思いませんかと聞く。どうしてなんですかと、言う、今の若いものは結婚もしないし、しても子供は産まない、そうかと思うと、すぐ別れる、男を2人も3人も付き合っていて、親は心配しながら高い費用を使って、式を挙げてくれたと言うのに何とも思わない、考えない、平気ですよ。自分で腹を痛めて産んだ子供迄、置いて帰ってくる。そして又別な男と。私は昔人間ですから、とても考えられない、運転手さんはどんな思いになられますか。

そうですね、今は狂っているのかも知れませんが、平和で自由が違う方に行っただけじゃないですかね。私も若い時に、爺さんが娘を嫁にやる時厳しく言ってやった……。どんなにですか。それはですね、着物一ぱい箆笥、長持ちこれだけ持たせてやる上からは、二度と帰ると思うなよ、とね。そうですね。所がね、娘が、父さん母さん、それ無理よ、千石積んだ船でさえ、海がシケたら又元の港に帰るぢやないですか、と言うと、親はそれでも先の父さん母さんに褒められ好かれる嫁になってくれと、言ったそうですね。

お年寄りはその通りでした、と言い乍らその道を左へ這入って下さい、いや、この道は一方通行の出口ですから、こちらから這入れませんよ。いいから這入って下さいよ。一方通行の場合、這入れないんですよ。所で、おばあちゃんは、どこらあたりですか。4、5軒先なんですよ。それでも法律で禁止されてますからね、ここからすみませんが、歩いて下さい。なんだ、年寄りを粗末にするんですか。いや、そんな訳じゃないです。わかって下さい。「へえ」と言い乍ら見つめているので、仕方なく運転手さんは入った。

すると4、5メートル這入ったところで、前からパトカーが、何んだ君、プロの運転手が出口から這入るとは、と叱られて始末を書を書かされて、車に帰ってみると、金も払わずに姿は見えない。アアやられた。でも、最初立派な事を云うし、この年寄りは育ちのよい人に好かれるお年寄りであり、一応の教養を備えた、何時までも話の出来るおばあちゃんと思ったのに。こんなお年寄りにはなりたくないものです。人に好かれるという事は難しい。

入院したら看護師さんに好かれる患者でありたいもの、人に好かれるどころか、年寄りには勝手が多すぎる、私もその一人であるかも知れない。

## 久保田万太郎

竹馬や いろはにほへと ちりぢりに

走馬灯 いのちを賭けて まはりけり

湯豆腐や いのちのはての うすあかり

### 「ごはん炊きの歌」（歌舞伎「浮世塚比翼稻妻」より）

お飯炊くなら

始めちよろちよろ

中くわつくわつ（中ぱっぱ）

赤子泣くとも蓋取るな

#### 編集後記

広報誌というより文芸誌の感があるさぞんか。今年は初心に帰って広報誌の側面も再度強調したいとは思っておりますが、ただお知らせのみの無味乾燥な紙面になってもいけないし、回を重ねるごとに紙面づくりの難しさが加わって来てるような気がします。今回は松井選手の背番号と同じ55号です。もちろん何の関係もありませんが。淡々と回を重ねてきましたが、どうもこれからは淡々とはいかないようです。遅々、苦苦として飛び飛びではあっても発行していきたいと思っていますところです。

小泉総理の施政方針演説の中で、チャップリンの映画ライムライトの中の言葉「All it needs is courage, imagination, and a little dough」（「夢と希望とサム・マネー」、「勇気と想像力とほんの少しのお金」、「愛と勇気と少しのお金」、「勇気と夢と少しばかりのお金」、「勇気と夢と少しばかりのお金」など色々な訳がある。）が引用してありました。さすが小泉劇場を主宰するだけに言葉のセンスは抜群ですね。言葉だけだという印象がなきにしもあらずではありますけど。右から左へと何千億円も動かしたりするマネーゲーム三昧のライブドア問題が持ち上がっているだけに何とも時期を得た引用でした。ポイントは人生には少しばかりのお金があれば良いということでしょうけど、煩惱がついて回るのもまた人間だといえそうなのかも知れません。